

令和5年度「秋の里山で身近な生き物を探そう！」

日時 令和5年10月14日（土） 午前9時00分から

行程 手取山公園東駐車場 集合 → 手取山公園エントランス広場 → 本宮山登山道入口
→（7町目付近で折り返し）→ 手取山公園内 → 手取山公園東駐車場 解散

当日の様子



今回の「秋の里山で身近な生き物を探そう！」は本宮山の麓側で開催しました。

当日は12人が参加して、東三河自然観察会の天野保幸先生達と本宮山登山道入口周辺に生息する動物や植物などを観察しました。集合場所となった手取山公園東駐車場を出発し、登山道入口へ向かって歩きました。途中の手取山公園ではヤマトシジミ、ニホンカナヘビ、ツチイナゴ、ウラナミシジミ、アサギマダラなど、子どもたちが次々に生き物を見つけて捕まえ、天野先生から生態や特徴などを教わりながら存分に観察することができました。

本宮山登山道ではオオセンチコガネやカマドウマを捕まえて観察しました。また登山道脇では様々な形や色のキノコがありました。古くなっていて種類が判別できないキノコもありましたが、カワラタケ、クチベニタケ、スエヒロタケ、ヒイロタケなどを見つけることができました。

本宮山登山道では所々で板根（ばんこん）が発達したシイノキを観察することができますが、これは土壌が浅い場所で木の上部を支えるために根がこのような形になることを天野先生が教えてくれました。また、過去の台風で倒れたシイノキの根の内側の様子や根の張り方なども観察しました。



↑シイノキの板根を観察



↑カワラタケを観察



↑クチベニタケ



↑登山道脇のキノコを観察



↑ウラナミシジミ

観察した主な植物等

アキノノゲシ、アケビ、アベマキ、
アレチヌスビトハギ、イヌサフラン、
イロハモミジ、ウスギムヨウラン、カワラタケ、
キシメジの仲間、クチベニタケ、コウヤボウキ、コシダ、コナラ、サルノコシカケの仲間、
シイの木の板根、スエヒロタケ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、タカサゴユリ、
ツクシハギ、テーダマツ、ハナビラタケ、ヒイロタケ、ブタナ、ムラサキシキブ、
ムラサキホコリカビ、メリケンカルカヤ 他

観察した主な動物

アサギマダラ、ウラナミシジミ、オオスズメバチ、オオセンチコガネ、ニホンカナヘビ、カマドウマ、
ザトウムシの仲間、ジョロウグモとシロカネイソウロウグモ、シロアリ、ツチイナゴ、ヒメアカネ、
ムネアカハラビロカマキリ、ヤマトゴキブリ、ヤマトシジミ 他

参加者の声（参加者アンケートより抜粋）

- ・ふだん何気なく歩いてしまう所にも、いろいろな物があり、おもしろく勉強できた。
- ・知らないことがしれて本当によかった。ありがとうございます。
- ・きのことわた毛を見つけて（子ども）、天野先生が家で調べてみたいと思います。と言ってくれたのでそれがうれしかったと言っていました。

などのご意見をいただきました。

最初、「ネットイカワキタケ」かと思われたキノコを天野先生が家に持ち帰って詳しく調べてくださいました。「資料が少なく種類は確定はできませんでしたが、傘の裏のヒダが同心円状になっている、地上発生であること、キノコ全体の色、形から「ウズタケ」に最も近いと思われます。」とのことでした。

また、写真はありませんが、参加者が見つけた綿毛も持ち帰って調べてくださいました。こちらも種類の確定はできませんでしたが、天野先生によれば「学名を *Gossypium tomentosum* という綿の仲間でしょう。それがどうして手取山にあったのかは不明です。ハワイではマオ (ma'oa) と呼ばれ、北米等で栽培されているようです。決めては綿毛の色です。ワタの仲間は殆ど白色の綿毛を持ちますが本種は褐色の綿毛なのです。」とのことでした。